

安全データシート

硫酸ナトリウム

作成年月日：2026年4月1日

1. 化学品及び会社概要

| | |
|--------------|---------------------|
| 化学品等の名称 | 硫酸ナトリウム |
| 供給者の会社名 | コーキン化学株式会社 |
| 住所 | 大阪府東大阪市中石切町3-7-49 |
| 電話番号 | 072-988-2300 |
| FAX番号 | 072-988-2506 |
| 電子メールアドレス | yakuji@kohkin.co.jp |
| 推奨用途及び使用上の制限 | 飼料添加物 |

2. 危険有害性の要約

GHS分類

| | | |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 物理化学的危険性 | — | |
| 健康に対する有害性 | 眼に対する重篤な損傷／眼刺激性 特定標的臓器毒性（単回ばく露） | 区分2B 区分1（消化管） |
| 環境に対する有害性 | — | |

ラベル要素

絵表示



注意喚起語 危険

危険有害性情報 強い眼刺激
消化管の障害

注意書き

【安全対策】

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
粉じん、煙、ガス、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
適切な保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護マスクを着用すること。

【応急措置】

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。

【保管】

施錠して保管すること。

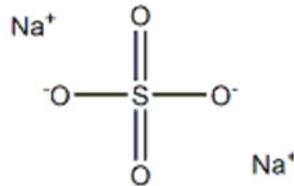
【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

3. 組成及び成分情報

| | |
|-------------|--|
| 化学物質・混合物の区別 | 化学物質 |
| 化学名又は一般名 | 硫酸ナトリウム (Sodium sulfate) |
| 別名 | ボウ硝 |
| 濃度又は濃度範囲 | 99%以上 |
| 化学式 (分子量) | Na ₂ SO ₄ (142.04) |

化学特性
(示性式又は構造式)



| | |
|--------------------|-----------|
| CAS登録番号 (CAS RN) | 7757-82-6 |
| 官報公示整理番号(化審法) | 1-501 |
| 官報公示整理番号(安衛法) | — |
| 化管法指定化学物質の種別 | — |
| 分類に寄与する不純物及び安定化添加物 | 情報なし |

4. 応急措置

| | |
|-----------------------|---|
| 吸入した場合 | 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 医師に連絡すること。 |
| 皮膚に付着した場合 | 洗い流してから水と石鹼で皮膚を洗浄すること。 |
| 眼に入った場合 | 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。 |
| 飲み込んだ場合 | 水で口をすすぎ、コップ1、2杯の水を飲ませること。直ちに医師の診断を受けること。 |
| 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 | 経口摂取: 吐き気、嘔吐、腹痛、下痢 |
| 応急措置をする者の保護 | 救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。 |

に必要な注意情報

医師に対する特別注意事項 情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤 情報なし

使ってはならない消火剤 情報なし

火災時の特有の危険有害性 不燃性。火災時に、刺激性あるいは有毒なヒュームやガスを放出する。

特有の消火方法 情報なし

消火活動を行う者の保護 自給式呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 関係者以外の立ち入りを禁止する。

保護具及び緊急時措置 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

個人用保護具：空気中濃度に応じた粒子用フィルター付マスク。

環境に対する注意事項 環境への放出を避けること。

封じ込め及び浄化の方法 こぼれた物質を、ふた付きの容器内に掃き入れる。

及び機材 湿らせてもよい場合は、粉じんを避けるために湿らせてから掃き入れる。

二次災害の防止策 情報なし

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱い注意事項 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

接触回避 「10. 安全性及び反応性」を参照。

衛生対策 取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

保管

安全な保管条件 直射日光を避け、換気のよい涼しい場所に密閉保管すること。

安全な容器包装材料 情報なし

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 未設定

許容濃度

ACGIH／TLV・TWA 未設定

日本産業衛生学会 未設定

設備対策 粉じんが発生する作業所においては、必ず密閉された装置、機器また

は局所換気装置を使用する。

保護具

| | |
|------------|------------------------------------|
| 呼吸器の保護具 | 粉じんが発生する場合、必要に応じて保護マスクや呼吸用保護具を着用する |
| 手の保護具 | 手に接触する恐れがある場合、保護手袋を着用する。 |
| 眼の保護具 | 眼に入る恐れがある場合、保護眼鏡やゴーグルを着用する。 |
| 皮膚及び身体の保護具 | 必要に応じて保護衣、保護エプロン等を着用する。 |

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|-------------------|---|
| 物理的状态：物理状态 | 固体 |
| ：色 | 白色 |
| ：臭い | 無臭 |
| 融点・凝固点 | 884°C (HSDB (Access on August 2019)) |
| 沸点又は初留点及び沸騰範囲 | データなし |
| 可燃性 | 不燃性 (ICSC (2005)) |
| 爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界 | 該当しない |
| 引火点 | 該当しない |
| 自然発火点 | 該当しない |
| 分解温度 | > 890°C (GESTIS (Access on August 2019)) |
| pH | 9.0 (5%溶液) (HSDB (Access on August 2019)) |
| 動粘性率 | 該当しない |
| 溶解度 | 水：170 g/L (20°C) (GESTIS (Access on August 2019)) グリセリンに可溶、アルコールに不溶 (HSDB (Access on August 2019)) |
| n-オクタノール/水分配係数 | log Kow = -4.38 (EST) (HSDB (Access on August 2019)) |
| 蒸気圧 | データなし |
| 密度及び／又は相対密度 | 2.70 g/cm ³ (20°C) (GESTIS (Access on August 2019)) |
| 相対ガス密度 | 該当しない |
| 粒子特性 | データなし |

10. 安定性及び反応性

| | |
|-----------|--------------------------------|
| 反応性 | 「危険有害反応可能性」を参照。 |
| 化学的安定性 | 情報なし |
| 危険有害反応可能性 | 加熱により分解すると、硫黄酸化物及び酸化ナトリウムを生じる。 |
| 避けるべき条件 | 混触危険物質との接触 |
| 混触危険物質 | アルミニウム、マグネシウム |

危険有害な分解生成物 硫黄酸化物、酸化ナトリウムの有毒なヒューム

11. 有害性情報

急性毒性

| | |
|---------------------|---|
| 経口 | ラットのLD ₅₀ : >10,000 mg/kg (SIDS (2006)) このことより、区分に該当しないとした。 |
| 経皮 | データ不足のため分類できない。 |
| 吸入：ガス | GHSの定義における固体であるので、区分に該当しない。 |
| 吸入：蒸気 | データ不足のため分類できない。 |
| 吸入：粉じん、ミスト | データ不足のため分類できない。 |
| 皮膚腐食性／刺激性 | 以下の(1)、(2)より、区分に該当しないとした。 【根拠データ】 (1) OECD TG 404に準拠したウサギを用いた皮膚刺激性試験で非刺激性(Not irritating)と判定されている(SIDS (2006)、REACH登録情報(Access on September 2019))。 (2) 本物質は皮膚刺激性を示さず、眼に対して軽度の刺激性を示す。また、感作性はほとんどない(SIDS (2006))。 【参考データ等】 (3) 61人のボランティアのうち、1人に刺激性を認めたのみと報告されているが、妥当性の検証は行われていない(SIDS (2006))。 (4) 本物質の10%液はヒトのパッチテストで19人のボランティアのうち、1人に軽度刺激性を認めた(SIDS (2006)、ATSDR (2012))。 |
| 眼に対する重篤な損傷／ 眼刺激性 | 以下の(1)、(2)より、区分2Bとした。 【根拠データ】 (1) OECD TG 405に準拠したウサギを用いた眼刺激性試験で軽度刺激性と判定されており、全ての所見は7日後以内に回復した (SIDS (2006)、REACH登録情報(Access on September 2019))。 (2) 本物質は皮膚刺激性を示さず、眼に対して軽度の刺激性を示す。また、感作性はほとんどない(SIDS (2006))。 |
| 呼吸器感作性 | データ不足のため分類できない。 |
| 皮膚感作性 | 以下の(1)、(2)より、区分に該当しないとした。 【根拠データ】 (1) モルモットを用いた皮膚感作性試験 (マキシマイゼーション法)のOECD TG 406において、皮膚反応は認められず陰性と結論されている (REACH登録情報 (Accessed on September, 2019))。 (2) 本物質は皮膚刺激性を示さず、眼に対して軽度の刺激性を示す。また、感作性はほとんどない(SIDS (2006))。 【参考データ等】 |

| | |
|------------------|---|
| 生殖細胞変異原性 | <p>(3) 61人のボランティアによる human repeated insult skin sensitisation testにおいて、1人に刺激性を認めたのみと報告されているが、妥当性の検証は行われていない (SIDS (2006)、REACH登録情報 (Accessed on September (2019)))。</p> <p>本物質の <i>in vivo</i> データはないものの、証拠の重み付け (WoE) に基づき、以下の(1)より、本物質はガイダンスにおける分類できないに相当し、区分に該当しないとした。</p> |
| | <p>【根拠データ】</p> <p>(1) <i>in vitro</i> では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験で陰性の報告がある (SIDS (2006)、食品安全委員会 添加物評価書(2013)_硫酸カリウム)。食品安全委員会による評価では、硫酸のカリウム塩を被験物質とした試験においていずれも陰性の結果が得られていることから、総合的な判断として、添加物「硫酸カリウム (CAS番号 7778-80-5)」は生体にとって特段問題となる遺伝毒性はないと結論付けられている。</p> |
| 発がん性 生殖毒性 | <p>データ不足のため分類できない。</p> <p>以下の(1)、(2)のように発生影響についてわずかな情報が得られたのみで、性機能・生殖能に関するデータがないことからデータ不足で分類できないとした。</p> |
| | <p>【参考データ等】</p> <p>(1) 雌マウスの妊娠8～12日に極めて大用量(2,800mg/kg/day) を強制経口投与した発生毒性試験において、母動物に異常はみられず、催奇形性等はみられていない。なお、児動物に生後1日での体重の高値がみられたが生後3日には差はみられていない (SIDS (2006))。</p> <p>(2) 雌マウスの妊娠8日あるいは9日に1用量(60mg/kg)を単回皮下注射した発生毒性試験において、母動物に体重増加がみられ、胎児に骨化遅延がみられた(SIDS (2006))。</p> |
| 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) | <p>ヒトにおいて医療目的で緩下剤として約300 mg/kg、最大限20 gの用量で経口投与により使用されたが、激しい下痢と腹部痙痛を生じるために、使用されなくなりつつある(SIDS (2006))。</p> <p>このことより、区分1(消化管)とした。</p> |
| 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) | <p>以下の(1)、(2)より、吸入及び経口経路について区分に該当しないとした。</p> <p>【根拠データ】</p> <p>(1) 本物質の粉じんによる2ヵ月～31年間ばく露された男性作業員119名を対象とした横断研究において、全例の尿中から本物質が2.2g/Lを超える濃度で検出され、30%の作業員で3g/dayを超える無機硫酸塩排泄がみられた。作業員への粉じんばく露で唯一みられた症状は鼻の刺</p> |

激と鼻水であった (SIDS (2006))。

(2) 雄ラットを用いた4週間混餌投与試験で、最高用量の約2,000 mg/kg/dayまで毒性影響はみられなかった(SIDS (2006))。

誤えん有害性

データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性) データ不足のため分類できない。

水生環境有害性 長期(慢性) データ不足のため分類できない。

オゾン層への有害性 当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

残留性・分解性 データなし

生態蓄積性 データなし

土壌中の移動性 データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規則

国連番号 該当しない

品名(国連輸送名) 該当しない

国連分類(輸送における危険有害性クラス) 該当しない

副次危険 該当しない

容器等級 該当しない

海洋汚染物質 該当しない

MARPOL73/78附属 該当する (Z: 硫酸ナトリウム溶液)

書II及びIBCコード

によるばら積み輸送

される液体物質

国内規制

陸上規制情報 該当しない

海上規制情報 該当しない

航空規制情報 該当しない

| | |
|-------------|---|
| 特別な安全上の対策 | 該当しない |
| その他（一般的）注意 | 化学品を扱う場合の一般的な注意として、輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 |
| 緊急時応急措置指針番号 | 該当しない |

15. 適用法令

| | |
|---------|--|
| 労働安全衛生法 | 名称等を表示すべき危険有害物（ $\geq 1\%$ ） 名称等を通知すべき危険有害物（ $\geq 1\%$ ） |
| 海洋汚染防止法 | 有害液体物質（Z類物質）（施行令別表第1）【157 硫酸ナトリウム溶液】 |
| 水道法 | 有害物質（法第4条第2項）、水質基準（平15省令101号）【36 ナトリウム及びその化合物】 |

16. その他の情報

この安全データシートは、いくつかの安全データシートの情報を参考にしたものです。すべての資料や文献を調査したわけではないため、情報に漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定などにご利用される場合は、別途、資料や文献を調査し検討されるか、試験によって確かめることをお勧めします。なお、物理化学的性質などの数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常の手扱いを想定しており、特殊な手扱いの場合には、別途注意が必要になることをご配慮ください。

<引用文献>

- 厚生労働省 職場の安全サイト：モデルSDS「硫酸ナトリウム」2020年3月13日作成版
- 独立行政法人製品評価技術基盤機構：化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP）
- 独立行政法人製品評価技術基盤機構：政府によるGHS分類結果「硫酸ナトリウム」、物質ID：R01-A-017（令和元年度分類）
- 独立行政法人製品評価技術基盤機構：NITE統合版GHS分類結果「硫酸ナトリウム」、物質ID：m-nite-7757-82-6_v1（令和元年度分類）